

日本海沖合魚礁—ひょうたん・向瀬—の魚類相*

大 内 明

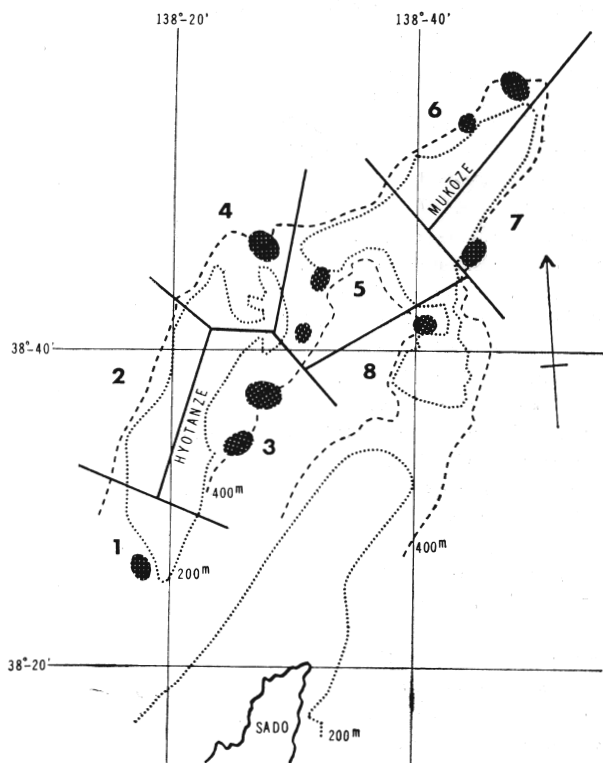
沖合魚礁の魚類相については、漁場がまだ開発途上にあるので、資料の入手が困難ということもあつてその報告例は少ない。大島(1957)は最上堆、森(1956)は大和堆、疋田他(1954)は武蔵堆、本間(1957, 1959)はひょうたん瀬の魚類についてそれぞれ報告しているが、武蔵堆の他はその出現種全体について述べられていない。

この報告は新潟県沖合深海調査のうち、1955年7月から12月までの間、新潟県水試銀山丸(旧水試試験船)と民間協力船(第八宝栄丸, 漁栄丸, 第八宝重丸)によつて底曳網で漁獲された全魚類についての魚類相を主に述べたものである。

多獲物以外の魚類は、各船から航海の都度箱につめて送付を受けこれを精査した。しかし、資料は必ずしも全船からその都度全部送られてきていないので、あるいは調査洩れもあるうと思われる。また、操業した場所は主に水深200~500mの堆の縁辺であるので(第1図)200m以浅の堆上の魚類は採集していない。したがつて結果的には、大部分が寒流系魚類である。なお、大島(1957)は山形沖、加茂沖の魚類を記載している。この中にはひょうたん・向瀬の魚も含まれていると思われるが、大部分が最上堆のものであり、また、沿岸域の魚も含まれているということであり、これらを区別できないので引用をさけた。

この報告を書くにあたり、資料の採集に多大な労を煩わした新潟県水試の調査員各位、並びに第八宝栄丸、漁栄丸、宝重丸の乗組員の方々、不詳種の査定を心よく引受けくださった大島正満博士、松原喜代松博士、本間義治博士に対し、また、いろいろと御配慮を賜つた日水研加藤源治部長に対し心から御礼を申し述べる。

調査期間中、ひょうたん・向瀬で底曳網によつて採集された魚種の総数は51種



対馬暖流開発調査報告書
第3輯(水産庁'58.P.47より引用) ● 資料採集位置

第1図 ひょうたん・向瀬の資料採集位置

* AKIRA OUCHI: The bottom fish-fauna on the Hyotan and Mukoze Banks in the northern Japan Sea.

で意外に少ない。この中で寒流系種は45種で暖流系種がほとんどとられていない。このように、出現種が少ないのは、調査期間が短いことと、操業水深が200m以深に限られたことによるものである。

タラ場(200m以深漁場の呼称)はオカ場(200m以浅漁場)にくらべ出現種が少なく、その組成が単純である(大内, 1962)ので出現種数も少ないが、堆

のオカ場を操業すればさらに多くの魚類が得られ、堆の魚類相はもつと多種にわたるものと思われる。

なお、越後沿岸の200m以深に棲む寒流系種は1952~55年の調査では40種であり(大内, 1962)沖合堆と沿岸漁場での出現種数には大差はみられない。

ひょうたん・向瀬の魚類目録

	アブラツノザメ	<i>Squalus suckleyi</i> (GIRARD)
○	ソコガンギエイ	<i>Breviraja isotrachys</i> (GÜNTHER)
○	ドブカスベ	<i>Breviraja smirnovi</i> (SOLDATOV et PAVLENKO)
	ニギス	<i>Argentina semi-fasciata</i> KISHINOUE
	ハタハタ	<i>Arctoscopus japonicus</i> (STEINDACHNER)
	ヒメジ	<i>Upeneus bensasi</i> (TEMMINCK et SCHLEGEL)
	ギンボ	<i>Enedrias nebulosus</i> (TEMMINCK et SCHLEGEL)
○	タウエガジ	<i>Stichaeus nozawai</i> JORDAN et SNYDER
×	タナカゲンゲ	<i>Lycodes tanakai</i> JORDAN et THOMPSON
○	ヨコシマガジ	<i>Lycodes macrolepis</i> TARANETZ et ANDRIASHEV.
○	クロガジ	<i>Lycodes soldatovi</i> TARANETZ et ANDRIASHEV.
○	クロゲンゲ	<i>Lycodes nakamurai</i> (TANAKA)
×	ニラミゲンゲ	<i>Gengea japonica</i> KATAYAMA
	ナガヅカ	<i>Stichaeus grigorjewi</i> HERZENSTEIN
	ノロゲンゲ	<i>Allolepis hollandi</i> JORDAN et HUBBS
	ハツメ	<i>Sebastes ovstoni</i> JORDAN et THOMPSON
	ヤナギノマイ	<i>Sebastes steindachneri</i> HILGENDORF
●	オニオコゼ	<i>Inimicus japonicus</i> (CUVIER et VALENCIENNES)
	ホッケ	<i>Pleurogrammus azonus</i> JORDAN et METZ
○	ヨロイコオリカジカ	<i>Icelus spiniger cataphractus</i> (PAVLENKO)
○	カワリオキカジカ	<i>Arctiellus auriculatus</i> (SOLDATOV)
○	ヤセコオリカジカ	<i>Icelus uncinialis stenosomus</i> ANDRIASHEV.
○	コブオキカジカ	<i>Arctiellus dydymovi dydymovi</i> SOLDATOV.
●	ガンコ	<i>Dasyottus japonicus</i> TANAKA.
×	ニシカジカ	<i>Aleicichthys aleicornis</i> (HERZENSTEIN)
○	トミカジカ	<i>Ricuzenius toyamaensis</i> MATSUBARA et IWAI.
×	キンカジカ	<i>Cottiusculus schmidti</i> JORDAN et STARKS.
	ツマグロカジカ	<i>Gymnocanthus herzensteini</i> JORDAN et STARKS.
	ニラミカジカ	<i>Triglops scepticus</i> GILBERT.
	コオリカジカ	<i>Icelus spiniger</i> GILBERT.
	セツパリカジカ	<i>Malacocottus gibber</i> SAKAMOTO-MATSUBARA
●	カムトサチウオ	<i>Ocea dodecaëdron</i> (TILLESIIUS)
○	サブロウ	<i>Ocea iburia</i> JORDAN et STARKS
●	テングトクビレ	<i>Sarritor leptorhynchus</i> (GILBERT)
	ヤセトクビレ	<i>Podrotheus thompsoni</i> JORDAN et GILBERT.
●	セキチクビクニン	<i>Careproctus sinensis</i> GILBERT et BURKE.
●	コンベイトウ	<i>Cyclolumpus asperrimum</i> TANAKA
●	アバチャン	<i>Crystallias matsushimae</i> JORDAN et SNYDER
●	クサウオ	<i>Liparis tanakai</i> (GILBERT et BURKE)
●	マガレイ	<i>Limanda herzensteini</i> JORDAN et SNYDER
	ヤナギムシガレイ	<i>Tanakius kitaharai</i> (JORDAN et STARKS)
	アカガレイ	<i>Hippoglossoides dubius</i> (SCHMIDT)
	ウロコメガレイ	<i>Acanthopsetta nadeshmyi</i> SCHMIDT
	ジュムジュガレイ	<i>Lepidopsetta bilineata</i> (AYRES)

- | | |
|-----------------|---|
| ソウハチ | <i>Cleisthenes pinetorum herzensteini</i> (SCHMIDT) |
| アブラガレイ | <i>Atheresthes evermanni</i> JORDAN et STARKS |
| ヒレグロ | <i>Glyptocephalus stelleri</i> (SCHMIDT) |
| マダラ | <i>Gadus macrocephalus</i> TILESIIUS |
| スケトウダラ | <i>Theragra chalcogramma</i> (PALLAS) |
| × サドヒナゲンゲ (仮称) | <i>Lycodes</i> sp. |
| × ゴマフウセンウオ (仮称) | <i>Cyclopteropsis</i> sp. |
| ○ …… 本間査定 | その他 …… 筆者査定 |
| ● …… 大島 " | |
| × …… 松原 " | |

ひょうたん・向瀬では今まで底曳がほとんどなされていなかっただけに、今回の調査でこれまで日本海で記録されていない魚種をはじめ、珍しい魚種が発見されている。すなわち、クロガジ、カワリオキカジカ、コブオキカジカ (本間, 1957, '59), カムトサチウオ (大島, 1957), ゴマフウセンウオ (仮称)*, サドヒナゲンゲ (仮称)** (松原) などが採

集されている。

以上の出現種の中で、漁獲の多かった魚種を第1表に示した。すなわち、マダラ、スケトウダラ、ハタハタ、ウロコメガレイ、アカガレイ、ヒレグロ、ハツメ等はとくに漁獲が多い。この他に産業的には重要でないのでこの表には記載していないが、ノロゲンゲ、ニラミカジカ、コオリカジカの漁獲も多く、

第1表 ひょうたん・向瀬における主要魚種の漁獲量 (1955)

単位: 箱

月	* 海区	操業回数	スケトウダラ	マダラ	ウロコメガレイ	アカガレイ	ヒレグロ	その他ガレイ類	ハタハタ	ハツメ	ホッケ
7	1	40	93.0	79.3	9.2	0.5	4.3	21.5	1.7	210.0	2.0
	3	117	435.0	135.8	62.9	19.4	47.6	111.9	3.9	1578.0	
	4	14	49.0	26.1	5.0	1.4	0.1	26.4	1.5	134.5	
	5	22	62.1	1.5	69.1	4.5	6.1	23.0	1.2	99.0	10.0
	8	18	70.0		18.0	0.2	8.2	7.0	1.3	126.0	
	6	2	23.0		0.1	0.1	0.1		19.7	78.0	
	7	49	280.4		20.4	4.9	3.5	10.5	1.1	866.0	
8	4	2	13.0		6.3	0.2	1.4			1.4	
	5	7	60.0		2.0	0.1	0.1	1.0	39.0	29.0	
	7	6	9.0		17.0		3.0			319.0	
	3	28	145.0		12.0	0.2	5.2		8.5	36.3	
9	6	1	2.0				2.0			1.5	
	8	4	37.5		6.5	0.5	3.3				
	3	6	16.0		1.0	1.0		0.2			
10	5	3	14.0		0.6	0.5		0.9			
	8	3	3.0		0.5			0.5			
11	3	7	7.3			1.2				7.0	
	8	5	16.5		3.5		4.5				
12	8	11	23.0		4.8	0.1	6.6	3.0	1.5	9.0	

* 海区は第1図参照。

* 大島 (1961) により *Lethotremus fuscopunctatus* として発表されているが、松原によればこれは誤りで *Cyclopteropsis* 属のものであり、また上野からも同様な連絡を受けた。

** 大島 (1961) により *Lycodes japonicus* として発表されているが、松原・本間によればこれは誤りでサドヒナゲンゲ (仮称) とすべきものである。

堆上に広く分布している。中でもノログングは多く、揚網に支障をきたしたことがしばしばであつた。

以上大きくみた場合、200m以深の魚種については堆の出現種は沿岸域とそれほど大きな違いは認められない。ただ、ウロコメガレイが沿岸域にはほとんどいないこと、ハツメが堆では沿岸域に比べて大量に分布していること等が、相違点ともいえよう。なお、このウロコメガレイは、新潟県沿岸だけでなく、日本海本土全沿岸にもほとんど分布せず、沖合の堆にのみ分布しており、堆特有の魚種といえよう。

文 献

- 正田 豊治・三柄 寛 (1952). 魚類調査(昭和26年度). 北部日本海深海魚田調査報告, 第3報: 37~51.
- 本間 義治 (1952). 新潟県魚類目録. 魚類学雑誌, 第2巻, 第3, 4, 5号.
- (1955). 新潟県魚類目録補訂 I・II・III. 魚類学雑誌, 第4巻, 第4, 5, 6号.
- (1956). 新潟県魚類目録補訂IV. 魚類学雑誌, 第5巻, 第1, 2号.
- (1957). 新潟県魚類目録補訂 V. 魚類学雑誌, 第6巻, 第4, 5, 6号.
- (1959). 新潟県魚類目録補訂 VI. 魚類学雑誌, 第7巻, 第5, 6号.
- IIOMMA, Y. (1957). On the rare bottom fishes found in the vicinity of province Echigo and Sado Island of the Japan Sea. III. *Jour. Pac. Sci.*, Niigata Univ., Ser. II: 2 (4).
- 加藤 源治 (1956). 日本海産魚類目録. 日水研報, 第4号, 別冊(補訂).
- 菊地勘左エ門 (1931). 富山湾産生物調査目録III. 富山湾魚類目録, 第44号.
- (1937). 富山湾生物相の概要. 博物学雑誌, 第5巻.
- 片山 正夫 (1940). 富山湾産魚類目録. 富山博物学会誌, No. 3.
- 松原喜代松 (1955). 魚類の形態と検索. I・II・III. 石崎書店刊.
- 森 為三 (1954). 山陰の海産魚類. 動雑, 第63巻, 第11, 12号.
- 大内 明 (1962). 佐渡海峡底曳禁止区域の漁業生物学的調査報告. 日水研: 27~31.
- 大島 正満 (1957). 新潟県及び山形県沖合の底魚について. 魚学雑誌, 第6巻, 第1, 2号: 1~8.
- 杉原千代松 (1944). 山形県産魚類調査報告. 第1報.